

ルカ・パチョーリ

日本パチョーリ協会顧問 岩井 敏

日伊協会監修『イタリア文化辞典』

(丸善 2011) より

●パチョーリ肖像画

ナポリ民謡で知られているナポリのサンタルチア海岸から、繁華街ローマ通りを抜けて、5kmほど登った丘の上に、国立カポディモンテ美術館がある。この美術館が所蔵する作品のひとつに《ルカ・パチョーリ修道士と青年の肖像》と名付けられた絵がある。この絵はヴェネツィア生まれの画家ヤコポ・デ・バルバリ（1450—1515 頃）によって、1495年に描かれたものといわれている。暗色基調のこの絵のモデルは、前年11月、数学書『スμμα』を出版した聖フランチェスコ会所属の修道士で数学者のルカ・パチョーリである。幾何学の図面を前にして立つ、年齢50頃の心身ともに充実した偉丈夫の姿がバルバリによって、いきいきと描かれている。

●生地ボルゴ・サンセポルクロ

ルカ・パチョーリは1445年頃、中部イタリア、アペニン山麓の盆地、ボルゴ・サンセポルクロに生まれた。父の名はバルトロメオ、パチョーリ一家は、やや低い中流の家柄であったと伝えられている。ボルゴ・サンセポルクロは10世紀頃、エルサレムからきた巡礼によって拓かれた集落で、1244年には人口3,293人を数える村にまで発展した。その後、複数回にわたる地震とペストによって、村は壊滅的な打撃を受け、その都度人口の激減をみた。が、着実に回復してきた。現在のサンセポルクロ市は、トスカーナ南部の地方都市として、人口15,700人弱の落ち着いた文化の香り高い姿をみせている。部厚い石壁の外側に開発された新市街地は、著名なパスタ会社、モダンな設計の教会、近代的なショッピングセンター、その他新しい感覚で造成された街が展開している。サンセポルクロの名は、ルネッサンス美術の愛好者にとっては、ピエロ・デッラ・フランチェスカ（1412—92）の生誕地として知られており、毎年、多くの旅行者が私立美術館やピエロの家を訪れている。

●師ピエロ・デッラ・フランチェスカ

パチョーリは少年期より、同郷の画家ピエロ・デッラ・フランチェスカから数学の教えを受ける幸運に恵まれた。ピエロはルネッサンス中期の高名な画家で、遠近法絵画に幾何学を駆使した数学者でもあった。我々は今日、幸いにもサンフランチェスコ教会（アレツォ）、サンセポルクロ美術館、ウフィツィ美術館（フィレンツェ）、マルケ美術館（ウルビーノ）、ナショナル・ギャラリー（ロンドン）、その他でピエロが描いた秀作を鑑賞することができる。パチョーリは師のピエロに伴われて、遠くウルビーノの文庫にも通ったと伝

えられている。当時、アドリア海に近い丘陵に築かれた城塞都市ウルビーノは、武人で文人の誉れ高い領主フェデリコ・ダ・モンテフェルトロ（1422–82）によって治められていた。サンセポルクロからウルビーノへの道は、険しい地形のアペニン山脈を登りきり、あとはいく重にも、うねるように繰り返す丘陵の見はるかす彼方 80km に近い道のりである。領主フェデリコが巨費を投じ、力を入れて整備した宮廷内の文庫は、他に類をみないほど優れていたといわれている。師に伴われ、ウルビーノの文庫に出入りできた若き日のパチョーリは、ここで貴重な文献をさぞ耽読したことであろう。

●ヴェネツィアの家教師

パチョーリは 20 歳に達した頃、ヴェネツィアの大商人アントニオ・ロンピアジの 3 人の息子の家庭教師を務めることになる。師ピエロとの関係から、家庭教師の職はレオン・バチスタ・アルベルティ（1404–72）の紹介であろうといわれている。アルベルティは貴族階級に属し、若い頃より万能の天才ぶりを認められていた著名人である。体操の名手であり、物理学、数学に秀いで、建築論、絵画論、彫刻論など、多くの優れた理論を著している。特にアルベルティの絵画論は、ピエロ・デッラ・フランチェスカ、ロレンツォ・ギベルティ（1378–1455）、レオナルド・ダ・ヴィンチ（1452–1519）に影響を与えたと伝えられている。ヴェネツィアにおける 6 年間の生活は、パチョーリにとって、数学者としての人と成りにきわめて重要な意義のある期間であった。当時のヴェネツィア商人の商業活動の実態をつぶさに観察し、勉強することができたし、また著名な数学者ドメニコ・ブラガダィノの教えを受けることもできたと伝えられている。

●修道士・数学者への道

ヴェネツィアでの 6 年間を終えたパチョーリは、ローマのアルベルティの邸に住みこむことになる。アルベルティの邸の生活は、パチョーリに上流階級の人々と接する機会を提供した。しかし、その期間は長くは続かなかった。1 年後（1472）にアルベルティが急逝したことにより、パチョーリは、は聖フランチェスカ会（コンヴェンツァリ派）の修道院に入り、聖職者としての道を歩むことになる。1475 年ペルジア大学に新設された数学の講座を担当するため、ルカ・パチョーリ修道士が招かれ講義を行った。当時、数学はまだ神学の一部と考えられていた。その後のパチョーリは、ペルジア大学をはじめ、フィレンツェ、ローマ、ナポリの大学でも教鞭をとっている。また、修道士としての活動も活発に行っていたため、必ずしも平穏なときばかりとはいえなかった。

●数学書『スママ』の出版

1494 年 11 月、ヴェネツィアにおいて、パガニーノ・デ・パガニーニ社より数学書『スママ』を出版した。『スママ』は最も初期の段階での印刷本として、いまでも世界に何冊かが現存している。この本の中でパチョーリは、当時のヴェネツィア商人が用いていた複式簿記

の説明をしている。財産目録に始まり、日記帳、仕訳帳、元帳の説明は 500 余年を経た現在、なお世界中の企業や団体をはじめ会計のあらゆる分野に脈々として継承され活用されている。ルカ・パチョーリを「会計の父」とよび、『スムマ』を「現存する最古の複式簿記書」とよぶゆえんである。パチョーリは『スムマ』の冒頭にウルビーノ公への献辞を呈している。名領主フェデリコはすでに亡く、ウルビーノは息子ガイドバルド・ダ・モンテフェルトロ（1472–1508）の時代となっていた。ガイドバルドは生来、病弱の体質であった。傭兵将軍の跡継ぎながら、その務めを果たせなかったといわれている。しかし、その反面、辺境の地ウルビーノに父の跡を継いで人文主義的な典雅な宮廷をつくりあげた文人領主としての逸話は、数多く残されている。カポディモンテ美術館所蔵の《パチョーリ肖像画》の若者のモデルは、通説ではガイドバルドであるとされている。ガイドバルドについては、ウルビーノ出身の画家ラファエロ・サンツィオ（1483–1520）が描いたとされる肖像画がウフィツィ美術館にある。この二つの絵に描かれた青年の風貌を比較すると、同一人物とするには疑問が残る。

●親友レオナルド・ダ・ヴィンチ

『スムマ』が出版され、世に広まった頃、ミラノの宮廷に仕えていたレオナルド・ダ・ヴィンチは『スムマ』を読んだといわれている。レオナルドの遺稿には『スムマ』の一部が転写されている。1496 年よりパチョーリはミラノに住むことになる。ミラノの宮廷においてパチョーリは多くの著名人と接することができた。なかでもレオナルドとの関係が深く、多くの逸話が残されている。レオナルドはパチョーリから、よく数学を学び、またパチョーリが後に出版した数学書『デヴィナ』の正多面体の挿図はレオナルドに描いてもらったといわれている。ミラノにおけるレオナルドとの親交は 1499 年末をもって終わる。フランス軍の侵攻による領主ルドヴィコ・イル・モーロ（1451–1508）の失脚を前に、パチョーリはレオナルドと一緒にミラノを去ることになる。

●晩年のパチョーリ

1500 年代に入ってパチョーリの活動は、フィレンツェ大学、ボローニヤ大学、ピサ大学での講義で終わっている。学者としての記録は、1514 年のローマ大学における講義で終わっている。一方、聖職者としての地位は、必ずしも安定・平穏とばかりとはいえなかった。1510 年にはサンセポルクロ、聖フランチェスカ会修道院の総長代理の要職に就任したが、トラブルが散発し、必ずしも穏やかな晩年とはいえなかった。パチョーリが逝去したのは 1517 年のことである。墓所はあきらかではない。

●パチョーリ剽窃論

パチョーリが世を去って 33 年が経過した。アレッツォ生まれのジョルジョ・ヴァザーリ（1511–74）が『美術家列伝』を世に出した。ヴァザーリは同書の「ピエロ・デッラ・フ

ランチェスカ」の冒頭および中間の 2 ヶ所において、パチョーリは師ピエロの学問的業績をあたかもみずからの研究成果であるがごとく、偽って数学書を出版した不届きな人物であると糾弾した。世にいう「パチョーリ剽窃論」である。

●パチョーリ記念碑

1878年ボルゴ・サンセポルクロの人々は、郷土の先人ルカ・パチョーリを讃えて記念碑を作成した。この記念碑は、現在の市庁舎（17世紀のラウデイ館）入口、向かって右側の外壁にはめ込まれている。大理石の記念碑には要約つきの碑文が深く彫り込まれている。すなわち、パチョーリがレオナルド・ダ・ヴィンチおよびレオン・バチスタ・アルベルティと親交があったこと。代数・幾何学の研究応用に偉大な貢献をしたこと。複式簿記を発見し、数学の諸著作により後世に不変の基礎と規範を提供したことが記されている。そして、末尾に、この記念碑は職人組合の発起により、370年間の忘却を恥じ、偉大な同郷人のために、サンセポルクロの住民が制作したものであることが明記されている。

●学問に王道なし

1942年、シンシナティ大学のエメット・テーラー（1889-1956）教授は、ルカ・パチョーリの伝記を世に出すにあたり、その本の題名を『No Royal Road』とした。この題名は紀元前の逸話に由来している。すなわち「古代エジプトの王プトレマイオス1世が、数学の師であるユークリッドに幾何学を簡単に極める方法について尋ねた。ユークリッドは学問を究めるのに王道——易しい方法——はないと答えた」。学者パチョーリの生涯を語るのに No Royal Road という言葉ほど適切な表現はほかにない。

●『スママ』出版500年

1994年4月、『スママ』出版500年を記念して、ヴェネツィアとサンセポルクロにおいて、記念行事が開催された。ヴェネツィアにおいては、イタリア会計史学会が中心となり、ジュディッカ島のジッターレ教会会議室を主会場として研究会が行われた。次いで、サンセポルクロにおいては、市立美術館のホールで、市長主催の式典が、翌日はダンテ劇場において数学の研究会が開催された。寒い日が続いた数日間であったが、特にヴェネツィアのサント・ステファノ教会における音楽の前夜祭は印象的であった。冷たい夜のしじまの中を流れてくる静かな旋律は、あたかも500年の時を超えて、語りかける数学者ルカ・パチョーリの声にも似て感じられた。先人に対する限りない畏敬の念に満たされた一夜であった。

参考文献

- [1] 鈴木弥洲平、中西 旭他『ルカ・パチョーリの生涯』 日本ミロク票簿、1977
- [2] R.Emmett Taylor, No Royal Road,The University of North Carolina Press,1942

[3] 平井泰太郎『「ぱちおり簿記書」研究』 神戸会計学会 1920

[4] 片岡義雄『パチョーリ「簿記書」の研究』 森山書店 1956

上記以外の参考文献は「日本パチョーリ協会 HP」参照